

平成19年
9月27日

病害虫発生予報 10月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！
薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

抑制トマト：タバココナジラミ類	1
トマト：トマト黄化葉巻病	1
抑制キュウリ：褐斑病，コナジラミ類	2
イチゴ：炭そ病	3
果樹共通（カキ・リンゴ）：カメムシ類	3
共通害虫：ハスモンヨトウ，オオタバコガ	4

【その他の病害虫】	5
ダイズ，サツマイモ，抑制トマト，抑制キュウリ，抑制ピーマン，イチゴ， 秋冬ハクサイ，冬レタス，秋冬ネギ，ブドウ	

・ 病害虫ミニ情報

果樹（ナシ・ブドウ・カキ）病害虫の秋季防除について	7
---------------------------	---

・ 今月の気象予報	9
-----------	---

・ テレホンサービス	9
------------	---

029(226)5321, 6131

本文に記載された農薬の登録内容は，平成19年9月21日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

抑制トマト

1. タバココナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在、寄生葉率、発生地点率とも平年並からやや高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、ハウス内は発生を助長する温度条件になる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。また本種はトマト黄化葉巻病を媒介するため、防除を徹底する。

ハウスの開口部には防虫ネット(0.4mm目合い)を設置し、タバココナジラミ類のハウス内への侵入を防止する。

タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

雑草はタバココナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

栽培終了時の残さ処理にあたっては、ハウスの開口部を閉め、株の断根処理を行い、株が完全に枯死してから処分する等、タバココナジラミ類が野外に出ないように注意する。

トマト

1. トマト黄化葉巻病

[現在の状況]

9月下旬現在、抑制栽培及び促成栽培(8月中~下旬定植)の一部においても発病を確認した。

本病を媒介するタバココナジラミ類の発生は、9月下旬現在、平年並からやや多い。

今後、抑制栽培の終了にともない、タバココナジラミ類の野外への飛び出しが懸念される。

[防除上注意すべき事項]

発病が認められた株は、感染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化させてから処分する。特に促成栽培では作期が長いので発生状況に十分注意する。

その他、上記記載のタバココナジラミ類の事項を参照。

抑制キュウリ

1. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在、発病葉率は平年よりやや高く、発生地点率は平年より高い。
気象予報によると、向こう1か月の降水量は少ないと予想され、ハウス内は発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

収穫終期は、発生が増加する傾向にあるため注意する。
罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
ハウス内が多湿になると発生しやすいため、適切な換気に努める。
薬剤散布は、薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同系統薬剤の連続散布は行わない。
(平成18年度農業総合センター主要成果参照(農業総合センターホームページに掲載))

2. コナジラミ類(タバココナジラミ類, オンシツコナジラミ)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い (タバココナジラミ類)	県下全域
	やや多い～多い (オンシツコナジラミ)	

[予報の根拠]

9月下旬現在、タバココナジラミ類は平年より発生が多く、オンシツコナジラミは平年よりやや多い発生である。
気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、ハウス内は発生を助長する温度条件となる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。
コナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
雑草はコナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。
オンシツコナジラミは黄化病を媒介するので、特に注意する。

イチゴ

1. 炭そ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在、発病株率、発生地点率は平年並からやや高い発生である。

気象予報によると、向こう1か月の降水量は少ないと予想され、感染を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

罹病株は新たな伝染源となるため、ハウス外に持ち出しビニール袋に入れ密封し、腐熟させて処分する。

本病は降雨等による水滴の跳ね上がりにより伝染するので、ハウスのビニール被覆等、雨よけ対策を行う。なおビニール被覆後は、温度の上昇により潜在感染株の発病が見られるようになるので注意する。

降雨後は特に感染が懸念されるので、薬剤散布による防除を行う。なお薬剤散布にあたっては薬液がよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。

果樹共通（カキ・リンゴ）

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在、カキにおける調査では被害果を認めず平年並である。

予察灯（かすみがうら市）へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、8月6半旬までは平年より少なく推移していたが、第一世代成虫の発生に伴い9月に入ってから増加した。9月5半旬現在、平年並の誘殺数である。

9月中旬現在、ヒノキ林におけるカメムシ類の発生量は、過去5年と比べやや少ない。

気象予報によると向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、発生に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

圃場内をよく観察し、カメムシ類が飛来した場合は直ちに防除を行う。なお、薬剤の収穫前日数には十分注意する。

薬剤散布は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

共通害虫

1. ハスモンヨトウ（8月31日付けで注意報発表）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年より多い。

9月下旬現在，イチゴで多く，レタス，ハクサイ及びピーマンでやや多い発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

レタスやハクサイでは，結球への食入を防ぐため，結球前に防除を徹底する。

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。また圃場周辺の雑草での発生にも注意する。

齢期が進むに従って薬剤の効果は低くなるため，若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では，開口部に防虫ネットを設置する。

2. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年並からやや多い。

9月下旬現在，レタス及びハクサイで平年並の発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は高いと予想され発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

レタスやハクサイでは，結球への食入を防ぐため，結球前に防除を徹底する。

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。齢期が進むにしたがって薬剤の効果は低くなるため，若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では，開口部に防虫ネットを設置する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ダイズ	紫斑病	発生量：平年並	適期収穫に努め，収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量：多い	9月下旬現在，鹿行地域では平年より多く，県北地域では平年よりやや多い発生である。県北地域では，今後被害が拡大すると考えられるので注意する。
抑制トマト	ミカンキイロアザミウマ	発生量：やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
抑制キュウリ	ミカンキイロアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	9月下旬現在，平年並からやや多い発生である。
抑制ピーマン	タバココナジラミ類	発生量：やや多い	9月下旬現在，幼虫，蛹の平均寄生葉率は過去3年中最も高い。果実に着色異常を引き起こすため，防除を徹底する。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	9月下旬現在，平年並の発生である。向こう1ヶ月の，気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。
イチゴ	じゃのめ病	発生量：多い	9月下旬現在，平年より多い発生である。
	輪斑病	発生量：やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	うどんこ病	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。ビニール被覆後は発生が増加するので注意する。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。ビニール被覆後は発生が増加するので注意する。
秋冬ハクサイ	白斑病	発生量：やや少ない	9月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	べと病	発生量：平年並	9月下旬現在，発生を認めない。
	軟腐病	発生量：平年並	9月下旬現在発生を認めない。風雨が多いと発生が助長されるので，台風等の風雨の後には，防除を徹底する。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
冬レタス	菌核病	発生量：平年並	9月下旬現在，発生を認めない。葉の基部を観察し，発生を認めた場合は初期防除を徹底する。
	腐敗病	発生量：平年並	9月下旬現在，発生を認めない。結球開始期に降雨が続くと発生しやすいので，初期防除を徹底する。
秋冬ネギ	さび病	発生量：平年並	9月下旬現在，発生を認めない。
	黒斑病	発生量：やや多い (県北地域)	9月下旬現在，県北では平年よりやや多く，県南では平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：多い (県北地域)	9月下旬現在，県北では平年より多く，県南では平年並の発生である。
	ハモグリバエ	発生量：やや多い (県北地域)	9月下旬現在，県北では平年よりやや多く，県南では平年並の発生である。
	ネギコガ	発生量：多い (県北地域)	9月下旬現在，県北では平年より多く，県南では平年並の発生である。
ブドウ	褐斑病	-	本年は発生が平年より多かったので，収穫後の防除を徹底し，落葉は集めて適正に処理する。
	さび病	-	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。収穫後の防除を徹底し，落葉は集めて適正に処理する。

果樹（ナシ・ブドウ・カキ）病害虫の秋季防除について

果樹（ナシ・ブドウ・カキ）主要病害虫の秋季防除についてお知らせします。特に、本年はナシ黒星病（以下黒星病）が全国的に多く発生したので、防除対策を重点的に行い、来年の感染源を減らしましょう。

【ナシ】

1. 黒星病

落葉処理

黒星病は、秋季に葉裏にうすい黒色の病斑（秋型病斑）を生じます。秋型病斑を生じた落葉上では、翌年の3月中旬頃から子のう胞子が形成され、5月下旬頃まで降雨によって飛散して伝染源となります。

- ・ 来年の伝染源を減らすために、**収穫後は落葉を集め、土中深く埋めましょう。**
この作業は労力がかかりますが、**高い防除効果が期待できます。**
- ・ より簡易な方法としては、ロータリーをかけて、落葉をすき込むことも有効です。

薬剤防除

10～11月の降雨時にりん片への感染が盛んになり、翌年の伝染源となります。

- ・ 防除暦に基づき、収穫直後及び10月にオキシラン水和剤等殺菌剤の散布を必ず行いましょう。
- ・ 薬剤散布量は、10a当たり300リットルを目安に十分な量を丁寧に散布し、かけむらのないように努めましょう。
- ・ **徒長枝に薬液がかかるようにすることが極めて重要です。**
- ・ 黒星病は降雨によって伝染するため、**秋季に雨が長く続く場合や多発園では、落葉前の11月上旬にもさらに防除を行ってください。**

2. うどんこ病

病原菌が被害落葉中で越冬するので、翌年の感染源を減らすためには黒星病の場合と同様に落葉処理が有効です。

3. ハダニ類、カイガラムシ類

枝幹の粗皮のすき間等で越冬するため、9月中（遅くとも10月上旬まで）に主枝などにバンド（紙製の米袋や布等）を巻き、冬期（2月まで）に取り外して、バンドの下に潜り込んだ越冬虫等を処分する「バンド捕殺」や粗皮削りを行うことで越冬密度の低下を図ることができます。**多発生した圃場では、粗皮削りをした後に厳寒期を避け12月または3月の発芽前までにマシン油乳剤を散布します。**

なお、マシン油乳剤と石灰硫黄合剤の近接散布は薬害を生じるおそれがあるため、3月の発芽前にマシン油乳剤を散布した場合、石灰硫黄合剤は使用しないでください。

【ブドウ】

1. ベと病、さび病、褐斑病、晩腐病

病原菌は、被害落葉あるいは巻きづるなどで越冬します。伝染源を翌年に残さないため、落葉や巻きづるは園外に持ち出し、土中深く埋めましょう。

2. ハダニ類、カイガラムシ類、チャノキイロアザミウマ

冬期の粗皮剥ぎにより越冬密度の低下を図ることができます。**ハダニ類、カイガラムシ類が多発生した圃場では、3月の発芽前に石灰硫黄合剤を散布します。**

【カキ】

1. 落葉病類

病原菌は被害落葉中で越冬するので、落葉は園外に持ち出し、土中深く埋めましょう。

2. カイガラムシ類，ハマキムシ類，カキノヘタムシガ

10月中旬～下旬に、主幹部を中心にバンド捕殺や粗皮削りを行うことで越冬虫の密度低下を図ることができます。カイガラムシ類が多発生した圃場では、ナシの場合と同様に粗皮削りをした後にマシン油乳剤を散布します。

最後に、ナシ・ブドウ・カキの主要な病害虫と秋季防除（一部春季防除を含む）のポイントを下表にまとめましたので参考にしてください。

表 ナシ，ブドウ，カキの主要な病害虫と秋季防除（一部春季防除を含む）

作物	病害虫	主な越冬場所	秋季防除（一部春季防除を含む）
ナシ	黒星病	被害落葉（秋病斑） りん片	落葉処理 殺菌剤散布
	うどんこ病	被害落葉	落葉処理
	ハダニ類 カイガラムシ類	粗皮間隙 樹皮上 誘引縄の中	バンド捕殺 粗皮削り 誘引縄の除去 マシン油乳剤の散布
ブドウ	べと病 さび病	被害落葉	落葉処理
	褐斑病	結果母枝，粗皮間隙 被害落葉	落葉処理 罹病結果母枝の除去
	晩腐病	結果母枝，巻きづる	罹病結果母枝や巻きづるの除去
	ハダニ類 カイガラムシ類	粗皮間隙 誘引縄の中	粗皮剥ぎ 石灰硫黄合剤の散布
	チャノキイロアザ ミウマ	粗皮間隙 園内外の寄主植物落葉下	粗皮剥ぎ 地表面の耕起，除草
カキ	落葉病類	被害落葉	落葉処理
	カイガラムシ類 ハマキムシ類 カキノヘタムシガ	粗皮間隙 樹皮上	バンド捕殺 粗皮削り マシン油乳剤の散布 （カイガラムシ類のみ対象）

本資料に記載の農薬は平成19年9月21日現在，登録されているものです。

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用法，注意事項等を確認のうえ使用してください。

また，周辺作物等へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意してください。

薬剤使用回数のカウントは収穫後から開始されるため，秋季防除での薬剤散布は，次作の使用回数に数えます。

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 9月22日から10月21日)

気象庁(9月21日 発表)

<向こう1か月の気温,降水量,日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	30	40
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。期間前半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 9月22日(土曜日)から9月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<2週目の予報> 月日(土曜日)から月日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 月日(土曜日)から月日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号:029(226)5321,6131

10月上旬 野菜類の病害虫(ハスモンヨトウ,トマト黄化葉巻病)の防除対策等について

10月下旬 果樹の秋季防除について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し,適用作物,使用方法,注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には,周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず,良く洗浄しましょう。